

演題発表は8の 카테고リーに分かれています。どの 카테고リーで発表していただくかは、運営上の都合により主催者側で調整させていただくこともございます。あらかじめご了承ください。

各 카테고リーとも多職種で支える在宅ケアの尊い実践のすばらしさをお伝えしたいと考えています。

■演題募集期間

2024年5月7日（火）～7月15日（月・祝）まで

■発表スライド提出期間

2024年8月1日（木）～10月14日（月・祝）まで

■応募資格

- ・当会会員（非会員の方は応募出来ません。ご加入後お申込ください）
- ・入会に関しては当会HP入会案内をご参照ください。

■応募カテゴリーについて（発表7分・質疑応答3分）

※カテゴリー詳細はページ最下部をご参照ください。

- 1.口腔ケアと栄養管理
- 2.緩和ケアと看取り
- 3.人材育成・教育・啓発
- 4.認知症に関する取り組み
- 5.障害や課題を抱える人との共生
- 6.経営の工夫・新しい試み
- 7.医療・介護の地域連携
- 8.子育て支援・生活困窮者支援

- ・演題発表・進行など形式につきましては各座長にて構成させていただきますのでご了承ください。
- ・運営上の都合により発表カテゴリーを調整していただく場合がございます。
- ・発表プレゼンテーションはPowerPointを使用してください。
- ・発表時間は7分質疑応答3分です。
- ・当日の発表スライドデータにつきましては、感染対策の観点から事前にご提出いただきます。
- ・詳細は「発表スライド投稿について」をご参照ください。

■応募方法・演題登録・発表スライド登録の手順

《手順1：演題登録》

【1】原則紙としてインターネットを利用したオンラインによる演題申し込みとします。

演題登録用紙をダウンロード必要事項を記載の上、ページ下にございます【演題投稿】ボタンよりファイルをアップロードいただきご登録ください。

【2】ファイル名は下記の通りでお願いします。

登録者氏名_所属.docx (例：福岡太郎_ふくおか診療所.docx)

【3】演題登録は2024年5月7日(火)～7月15日(月・祝)までをお願いいたします。

【4】お申込み受領確認後に事務局より、申込受理のメールをお送りします。1週間を過ぎてもメールが届かない場合は、お手数ではございますがネットワーク事務局までお問い合わせください。

(事務局 047-347-2231 | jimukyoku@sasaeru-net.org)

《手順2：発表スライド登録》

【1】「発表スライド登録ボタン」より発表データ (pptx または pdf) をアップロードしご登録ください。

【2】ファイル名は、下記の通りでお願いします。

筆頭演者氏名_所属.pptx (例：福岡太郎_ふくおか診療所.pptx)

【3】発表スライド登録は2024年8月1日(木)～10月14日(月・祝)までをお願いいたします。

■査読・採択通知

・査読後、採択結果ならびに発表日時をご登録頂いたメールアドレスにお送りいたします。

■演題登録時の注意事項

・演題名は全角換算で60字以内(副題含む)、発表内容抄録文は400字以内、演者等を含めた総字数は600字以内です。

・フォントは文字化けを防ぐため下記のOS標準フォントを使用してください

【日本語】MSゴシック, MSPゴシック, MS明朝, MSP明朝, メイリオ, 游ゴシック, 游明朝

【英語】Times New Roman, Arial, Arial Black, Arial Narrow, Century, Century Gothic,

Courier, Courier New, Georgia

・一旦登録した演題は、受付期間中であれば修正等可能です。ネットワーク事務局までお問い合わせください。

・演題登録締め切り以降の訂正、登録、削除は一切できません。

■発表形式

・口演発表 発表時間 7分、質疑応答 3分の現地発表となります。

・発表時に使用するPC・配信機材は大会事務局で用意いたします。

10月14日(月・祝)までに「発表スライド登録」ボタンよりご登録ください。

■優秀演題賞について

・実践交流会では各カテゴリーより優秀演題賞を選出いたします。

・第1日目の懇親会にて受賞者の発表および表彰を行いますのでたくさんのご応募お待ちしております。

■演題登録に関するお問合せ先

NPO 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク事務局

いらはら診療所 浅沼・田中

TEL：047-347-2231

E-mail：jimukyoku@sasaeru-net.org

対応時間：9:30-17:00 ※土・日・祝祭日は休業となります。

■口腔ケアと栄養管理

【座長】 ネットワーク理事

福岡大会実行委員

病院から出された患者さんたちは、何らかの障害をかかえながら在宅（施設）で生活に復帰していきます。ただ現在、在宅で直面している問題は在宅療養者の約70%が低栄養、低栄養予備軍であるという現実です。そして多くの低栄養の在宅療養者は食事を楽しみにしていない!! さらに栄養状態が悪くなれば介護度の重度化をまねくことは明らかです。

このような在宅療養者をわれわれはどうサポートしていったらいいのでしょうか、またどうしたら元気に生活復帰できるのでしょうか？

現場でかかえる問題点、改善点を家族、多職種、医療職、みんなで話し合いませんか。

どうしたら食べられると思いますか？

○キーワード：在宅で生活復帰、低栄養、食支援、嚥下、口から食べることの意味

■緩和ケアと看取り

【座長】 ネットワーク理事

福岡大会実行委員

緩和ケアとは、病気に伴う心と体の痛みを和らげること（厚生労働省）。ここに集う皆さんには当たり前のことですよね。ただし忘れてはならないのは、緩和ケアと看取りはイコールではないということです。看取りを目指して緩和ケアを行うのではなく、緩和ケアの延長にたまたま看取りがあると私は考えます。しかし、それも違うという意見があります。息を引き取る際そばにいたことが看取りではなく、それまでの関わり全てが看取りであるというものです。すなわち、看取りは瞬間ではなく時間というとらえ方。

そう考えるとこのカテゴリータイトルはおかしなことになってしまいますが、細かいことは言いません。皆さんがこれまでに経験してきた「緩和ケア」や「看取り」の中で、誰かに聞いてほしいというものをぜひ教えてください。

なお、看取ってそれでお終いというわけではないことも、みなさんご存じでしょう。家族や施設職員など看取る側の日々はそれからも続きます。グリーフケアなど、看取った後の皆さんの取り組みの報告もお待ちしております。

単なる発表ではなく「実践交流」の場となることを目指します。そのために現場の声が何より大切です。皆さんのエントリーをお待ちしております。

■人材育成・教育・啓発

【座長】 ネットワーク理事

福岡大会実行委員

「人材」という言葉を私は意図的に「人財」と置き換えることがあります。文字通り正に人々は「材料」ではなく「財産」だと言う意味からです。

今の時代、様々な分野において IT はとってとても大きな役割を担っており確かに必要なものになっております。これからの日常生活において人が生きて行くうえで全てを「人」から「IT」に取って代わられるのではないかという意見まで出てくるぐらいです。しかし、この全国の集いに御参加いただいている皆様に関わっておられる・関心をもってくださっている、これからの福祉介護医療を考えた時に先ずなくてはならないのは決して IT ではな

く人です。

この福祉介護医療分野においてはどうしても IT で置き換えることが出来ない多くのことがあります。しかし、あまり深く考えなければこの福祉介護医療分野においても IT で代わりに行えると極論を唱えるひともいるようです。それは言い過ぎだと私は考えますが、とはいえ IT をこの福祉介護医療分野で利用することはとっても重要なことに違いありません。

だからこそ、この福祉介護医療分野においては IT に使われるのではなく IT を利用して活躍する「人財」育成・教育・啓発がとっても重要になってきています。

これから様々な IT を駆使するようになるであろうこの分野において、今現在も日本各地でいろんな取り組みが実践されていることと思います。1年に一度このように全国から集まり皆で一緒に学べる機会に、今の状況・実践やこれからの見据えての計画・実践を沢山の仲間と共有したいと思います。皆様の日頃の実践を共有する発表をお申し込みください、大変楽しみにしています。

■認知症に関する取り組み

【座長】 ネットワーク理事

福岡大会実行委員

認知症になっても安心して住み慣れた地域で暮らせるためにはどのようにすればよいでしょうか。全ての人が当たり前のように認知症と共に生きる社会にむけ、それぞれの立場である私たちは何が出来るのか。参加された方がひとつでも気づきがあり、それぞれの現場へ持ち帰ることが出来る何かがあるような場としたいと考えております。

認知症の諸症状は脳の病気によるものだけでなく日常生活の中にも原因があることが分かり、薬物療法やケアの技法の見直しも進んでいます。

近年 ICT や AI の活用も試みられ、コロナ対策により益々その重要度が増してきています。また、介護の現場には市民、行政、教育、民間企業など地域を巻き込んだ社会全体のネットワークも必要です。認知症ケアの最先端は、現場の実践の中にあります。

皆様の現場での取り組みをぜひご紹介ください、お待ちしております。

■障害や課題を抱える人との共生

【座長】 ネットワーク理事

福岡大会実行委員

「障害の社会モデル」という考えが普及し、社会的障壁を取り除き自立を支援し、合理的配慮のもと地域での共生を目指す取り組みが各地ですすめられてきました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大では、「命の選別」といったコトバも取り沙汰され、弱者やマイノリティに対する寛容性が低くなりつつあるとの懸念も生じました。こうした時代に私たちは、どうすれば差別や偏見なく多様性を包摂した共生社会を構築できるでしょうか。

本セッションでは、障害のある方の社会参加への取り組みや、工夫、課題といったことをご発表いただきます。皆さまの日々の活動への気づきやヒントになれば幸いです。

■経営の工夫・新しい試み

【座長】 ネットワーク理事

福岡大会実行委員

「新しい試み」には「事例そのもの」ばかりでなく、そこに含まれている様々な「知恵」に気づくことにより、また新たな「試み」に繋がる可能性を持っています。

勿論、どのカテゴリーにもそれぞれそのような可能性は持っていますが、このカテゴリーの交流会において、様々な事例の発表を通じその「個々の試み」を伝えるばかりでなく、全体の発表を通じてそれぞれの「知恵」を感じ、持ち帰った皆様の地元の活動に少しでも寄与出来る・・・そんな場にしたいと思っています。

些細な内容でも大きなヒントにつながります。

失敗例は成功例よりも多くの知恵が隠されています。

「地域包括ケア」を含め多くの現実の流れの中で、いろんな「気付き」を参加された皆様方が持って帰れるような交流会にしたいと思っております。皆様の発表をお待ちしております。

■医療・介護の地域連携

【座長】 ネットワーク理事

福岡大会実行委員

高齢化社会が進む現代において、医療・介護の地域連携は、ますます重要となっています。

これまでも、医療・介護専門職種間の顔と腕が見える関係づくりや、ICT・地域連携パスなどのツール運用などを実施しながら、患者さんや利用者さんに最適な医療やケアを提供する仕組みを構築されてきたことと思います。しかし、現実には多くの課題があり、悩みながらも業務を行っていることでしょう。このセッションでは更なる連携を進めるために、皆さまからの医療・介護の地域連携の工夫や取り組みをご紹介ください。参加者と共に一緒に考え、実践に活かしましょう。

■子育て支援・生活困窮者支援

【座長】 ネットワーク理事

福岡大会実行委員

国は「地域共生社会の実現に向けて、必要な支援を包括的に提供することが必要であるのは、高齢者だけではない、障害者、生活困窮者、子ども等に対する「多世代対応型」の地域包括ケアシステムが必要とうたっています。

これは地域で活動する我々は肌で感じ、実際に活動されている多くのケースがあるのではないのでしょうか。

現場での子育て支援、生活困窮者支援などの事例や、取り組み、問題提起など発表いただき皆さんと共有できれば幸いです。多くの実践発表をお待ちいたします。

多くの皆様のご登録を、心よりお待ちしております。